

授業科目名 <英訳>	地域研究論 Introduction to Area Studies				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
通常科学（normal science）とは異なった地域研究の、学としての性格・歴史・成果・展望・課題などについて、研究科教員がオムニバス形式で自己の研究を踏まえて論じます。											
[到達目標]											
地域研究に関する多様な視点を理解する。											
[授業計画と内容]											
4月10日「オリエンテーション」（受講学生および担当教員全員の自己紹介をおこないます） 第2週以降、地域研究における基本的な視座や問題群と担当教員の専門領域をかけあわせた主要なテーマ、トピックを展開します。 4月17日「論文執筆入門」中溝和弥 4月24日「リサーチ・クエスチョンの立て方」小林知 5月1日「東南アジアから地域研究を考える」片岡樹 5月8日「民族植物学が広げる地域研究の可能性」重田眞義 5月15日「社会科学入門」Rohan D'Souza 5月22日「地域研究とものつくりの人類学」金子守恵 5月29日「博士(地域研究)のキャリア・デベロップメント」安岡宏和 6月5日「冷戦終結後の地域研究の新課題」帯谷知可 6月12日「地域研究と比較の視点」平野美佐											
[履修要件]											
特別な予備知識は必要としない。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
1．毎回出席をとり、半分以上出席した者に対しレポートの提出資格を認めます。 2．各担当教員毎にレポート課題を出しますので、受講者は、その課題の中から1つを選び、7月末までにレポート（約2000字）を提出して下さい（教務掛まで）。 3．成績は、平常点（50点）およびレポート（50点）を基準とします。											
[教科書]											
適宜、資料を配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する 随時紹介します。											
[授業外学習（予習・復習）等]											
授業で紹介された手法や文献についての自学自習											
（その他（オフィスアワー等））											
第1週の「オリエンテーション」では、全担当教員と受講学生全員が、自己紹介をおこないます。受講生の自己紹介は事前に提出していただき、全担当教員にあらかじめ配布します。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	アジア・アフリカ地域研究演習 Seminar on Asian and African Area Studies				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員					
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
地域研究を進める上で必要となる、さまざまな研究手法・作法や技術・言語、書籍や地理情報の利用方法を、実習形式で習得することを目指します。											
[到達目標]											
地域研究に関する多様な研究手法を理解する。											
[授業計画と内容]											
第1週以降各週、実践的なテーマについて、演習・実習をおこないます。具体的な内容は、「コンピュータリテラシー、ネットワーク」「文献検索基本演習」「地域言語と地域研究」「アジア・アフリカ有用植物観察演習」「系譜調査そのデータ分析」「身近に生息するレジオネラ」「GIS入門」「理論と直観#8212フィールドの事象をゲーム理論でモデル化する」「フィールドで何を調べるのか：KJ法によるブレーンストーミングの練習」「芦生研究林実習」（合宿研修）など。											
[履修要件]											
特別な予備知識は必要としません。文理融合を前提とする地域研究の基礎的演習であるため、文・理それぞれのバックグラウンドを持つ受講生が、これまで触れたことのない分野を含めて、体験的に学習します。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
<ol style="list-style-type: none"> 1．毎回出席をとり、半分以上出席した者に対しレポートの提出資格を認めます。 2．各担当教員毎にレポート課題を出しますので、受講者は、その課題の中から1つを選び、7月末までにレポート（約2000字）を提出して下さい（教務掛まで）。 3．成績は、平常点（50点）およびレポート（50点）を基準とします。 											
[教科書]											
適宜、資料を配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する 随時紹介します。											
[授業外学習（予習・復習）等]											
授業で紹介された手法や文献についての自学自習											
（その他（オフィスアワー等））											
合宿形式で行う芦生研究林実習は、演習の一部ですが、参加は強制ではありません。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	アジア地域研究公開演習 Open Seminar on Asian Area Studies				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員					
配当 学年	5回生のみ	単位数	1	開講年度・ 開講期	2017・ 通年不定	曜時間	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
本研究科で行った研究の成果を、本学他研究科、学外の教育研究機関の研究者、さらには一般市民に公開された研究会・学会やシンポジウム等で発表する。研究発表および質疑応答の要領を実地に学び、担当教員と改善点等について討議する。											
[到達目標]											
自らの研究の成果を聴衆に合わせて説明できるようになる。											
[授業計画と内容]											
下記の研究発表機会を利用し、研究発表を行う。発表時に同席が可能な担当教員と事前、事後に打合せを行い、発表内容や発表技術について評価を受ける。											
<ul style="list-style-type: none"> ・研究科内で行われている公開の諸研究会、懇談会、シンポジウム等 ・国内外の学会及びそれに準ずる研究集会等 ・その他、担当教員が適切であると認めた研究集会等 											
[履修要件]											
履修希望者は、前期、後期の各履修登録時に、地域研究公開演習履修登録届（兼報告書）に必要事項を記入して教務掛に提出する。担当教員は、演習終了後、速やかに所見を報告書に記入し、教務掛に提出する。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
発表時、担当教員1名の同席を必須とする。											
[教科書]											
随時紹介											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する 随時紹介											
[授業外学習（予習・復習）等]											
自らの研究テーマに関する資料の整理											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	アフリカ地域研究公開演習 Open Seminar on African Area Studies				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員					
配当 学年	5回生のみ	単位数	1	開講年度・ 開講期	2017・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
本研究科で行った研究の成果を、本学他研究科、学外の教育研究機関の研究者、さらには一般市民に公開された研究会・学会やシンポジウム等で発表する。研究発表および質疑応答の要領を実地に学び、担当教員と改善点等について討議する。											
[到達目標]											
自らの研究の成果を聴衆に合わせて説明できるようになる。											
[授業計画と内容]											
下記の研究発表機会を利用し、研究発表を行う。発表時に同席が可能な担当教員と事前、事後に打合せを行い、発表内容や発表技術について評価を受ける。											
<ul style="list-style-type: none"> ・研究科内で行われている公開の諸研究会、懇談会、シンポジウム等 ・国内外の学会及びそれに準ずる研究集会等 ・その他、担当教員が適切であると認めた研究集会等 											
[履修要件]											
履修希望者は、前期、後期の各履修登録時に、地域研究公開演習履修登録届（兼報告書）に必要事項を記入して教務掛に提出する。担当教員は、演習終了後、速やかに所見を報告書に記入し、教務掛に提出する。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
発表時、担当教員1名の同席を必須とする。											
[教科書]											
随時紹介											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する 随時紹介											
[授業外学習（予習・復習）等]											
自らの研究テーマに関する資料の整理。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	グローバル地域研究公開演習 Open Seminar on Global Area Studies				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員					
配当 学年	5回生のみ	単位数	1	開講年度・ 開講期	2017・ 通年不定	曜時間	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
本研究科で行った研究の成果を、本学他研究科、学外の教育研究機関の研究者、さらには一般市民に公開された研究会・学会やシンポジウム等で発表する。研究発表および質疑応答の要領を実地に学び、担当教員と改善点等について討議する。											
[到達目標]											
自らの研究の成果を聴衆に合わせて説明できるようになる。											
[授業計画と内容]											
下記の研究発表機会を利用し、研究発表を行う。発表時に同席が可能な担当教員と事前、事後に打合せを行い、発表内容や発表技術について評価を受ける。											
<ul style="list-style-type: none"> ・研究科内で行われている公開の諸研究会、懇談会、シンポジウム等 ・国内外の学会及びそれに準ずる研究集会等 ・その他、担当教員が適切であると認めた研究集会等 											
[履修要件]											
履修希望者は、前期、後期の各履修登録時に、地域研究公開演習履修登録届（兼報告書）に必要事項を記入して教務掛に提出する。担当教員は、演習終了後、速やかに所見を報告書に記入し、教務掛に提出する。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
発表時、担当教員1名の同席を必須とする。											
[教科書]											
随時紹介											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する 随時紹介											
[授業外学習（予習・復習）等]											
自らの研究テーマに関する資料の整理											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	環境・感染症論 Environment and Infection				担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授 西淵 光昭					
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語

【授業の概要・目的】

教官による講義および受講生による発表とそれに基づくグループディスカッションを通して、ヒトの感染症の発生・伝播に影響を与える要因の中で、特に環境中の種々の要因あるいはそれらの相互作用およびその他の要因との関連性を理解する。

【到達目標】

感染症を生態学的視点から捉えるために、病原体の生息する自然環境、ヒトの作り出す人為的環境、感染を受けるヒトの抵抗性などの様々な要因を総合的に解析するアプローチを習得する。

【授業計画と内容】

基本的に以下のスケジュールに従って授業を実施する。第1回～第8回は、講義（西淵）、第9回～第13回は、セミナー形式のレポート報告会、第14回は、（検疫所見学で検疫所の都合に合わせて日時が変更になる見込みであり、オープン参加者（受講していない大学院生）も定員内なら受け付ける。

- 第1回 感染症学習に必要な背景要因（講義）
- 第2回 新興感染症：先進国で最も問題になっている感染症（講義）
- 第3回 発展途上国における開発と感染症の関係：インドネシア（講義）
- 第4回 水と健康（講義）
- 第5回 世界規模で伝播する重要な感染症（講義）
- 第6回 最近話題になっている感染症（講義）
- 第7回 感染症の分子疫学的解析（講義）
- 第8回 国内と国外の感染症（講義）
- 第9回 特定の感染症の発生・伝播に影響する要因の解析I（ゼミ）
- 第10回 特定の感染症の発生・伝播に影響する要因の解析II（ゼミ）
- 第11回 特定の感染症の発生・伝播に影響する要因の解析III（ゼミ）
- 第12回 特定の感染症の発生・伝播に影響する要因の解析IV（ゼミ）
- 第13回 特定の感染症の発生・伝播に影響する要因の解析V（ゼミ）
- 第14回 1月16日 感染症の伝播の防止（検疫所見学）

【履修要件】

配布資料とパワーポイントのスライドは、日本語と英語を併記する。

グローバル生存学大学院（リーディング大学院）の科目に選定される、受講者の半数以上の母国語が日本語以外の場合など、授業で使用する言語は原則として英語にしたほうが良い場合、受講者の合意を得て、そのようにする。状況を鑑みて重要な部分は日本語と両方で説明する。

不可抗力によって授業を開催できない場合休講にするが、希望があれば別途集中講義などで補講をすることは可能である。

次年度以後の授業の改良の参考にするために、第13項目が完了した時点で、受講生に本授業に関するコメントを求める。

検疫所の見学（第14項目）には、ほとんど終日のスケジュールが必要である（京都 検疫所 京都の移動、検疫所での見学には午後の就業時間のほとんどが必要）ため、実際には2月中旬か下旬に実施される可能性が強い。1年目は関西空港検疫所、次年度は神戸検疫所次は関西空港検疫所

環境・感染症論(2)

というように、1年おきに関西の2つの主要検疫所を順次訪問する。両検疫所の見学が可能になるように、しかるべき大学院または研究所に2年以上在籍する大学院生・教員に対してオープン参加を認める。神戸検疫所では、輸入食品の安全性、関西空港検疫所では、主として海外旅行者が持ち込む輸入感染症の防止策について学ぶ。

[成績評価の方法・観点及び達成度]

下記の対象とする項目について、それらの内容を総合的に評価して判定する。

前半は教官による講義なので、成績評価は出席状況（配分40%）、後半は受講生によるレポート発表15分(成績評価配分40%)とそれに基づくグループディスカッション15分(成績評価配分20%)における知的理解度、積極性、観察力、洞察力、意思表示の能力をもとに判定する。

検疫所見学への参加・不参加は、成績提出時期に間に合わないので、オプション扱いとし、評価の対象に含めない。

レポート発表のない受講生は未受験扱いとし、成績は無しとする。

[教科書]

教科書は使用しない。講義の内容の理解を補助する資料として、講義の骨子をまとめたプリント（日本語と英語併記）および学術論文等の写しを必要に応じて配布する。

[参考書等]

（参考書）

Marc Gentilini. 1993. Translated into Jap. by T. Shimizu et al. 『Médecine Tropicale』（Nakayama-Shoten）

Ed. R. L. Guerrant et al. 2006 『Tropical Infectious Diseases 2nd ed』（Churchill Livingstone Elsevier）

[授業外学習（予習・復習）等]

予習・復習は必ずしも必要ない。講義内容に関連する情報を学びたいければ、講師（西淵）が適当な情報を提供する。

（その他（オフィスアワー等））

連絡先

〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町46
京都大学東南アジア地域研究研究所 東棟2階E205号室
西淵光昭

Tel. オフィス (075) 753-7367, ラボ (075) 753-7319, (075) 761-2700

Fax. (075) 753-7319, (075) 761-2701

e-mail. nisibuti@cseas.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	グローバル・ヒストリー A Study on the Global History				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 籠谷 直人					
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
<p>一国の歴史や地域の歴史が、相互依存的に推移していることが明らかにされつつある。主権国家システム、重商主義、市民革命、産業革命、帝国主義といった歴史径路も多様な地域間の相互依存の結果であった可能性も高い。アジアと北ヨーロッパ、そしてアメリカの新大陸を対象に長期の経済史を議論する。</p>											
[到達目標]											
現在の「世界史」が抱えた問題を歴史的な経緯から具体的に理解することができる。											
[授業計画と内容]											
<p>適当なテキストをとりあげて、読み進める。また映像資料を用意している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 大航海の時代 2 重商主義の歴史低意義 3 産業革命期の世界貿易 4 東アジアの工業化 5 華僑と印僑の歴史的意義 											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
講義への出席、授業内での発言にて評価する。											
[教科書]											
未定											
[参考書等]											
<p>(参考書)</p> <p>授業中に紹介する</p>											
[授業外学習(予習・復習)等]											
適宜、講義に関するプリントを配布。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	タイ読解II Reading in Thai Studies II				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 玉田 芳史					
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	水2	授業 形態		使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
タイに関する学術文献のうち、主としてタイ語のものを講読します。受講生はタイ語の読解力に加えて、タイを理解する能力を磨きます。											
【到達目標】											
タイ語の学術文献を読めるようになることが目的です。											
【授業計画と内容】											
現代タイ政治において、すこぶる重要な役割を果たしている君主制に関するタイ語の学術文献を講読します。それによって、タイの政治・社会・文化への理解を深めます。さしあたり、次の文献を読む予定にしています。すべてタイ語文献です。 ナッタポン・チャイチン『途方もない夢を見る』（2013年） チャニダー・チットバンディット『国王発案事業』（2007年） カシアン・テーチャピーラ「階級対立と王党派大衆政治」（2016年） スッパラック・カーンチャナクンディー「国王を元首とする完璧な民主主義」（2013年） タナーポン・イウサクン&チャイタワット・トゥラートン「国王を元首とする民主主義体制における枢密顧問官」（2015年） プラーカーン・クリンフン「民衆の真ん中」（2013年）											
【履修要件】											
タイ語が読めること、日本語で要約できること											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
出欠、報告、質疑応答。											
【教科書】											
上記の通り。これ以外のものを追加する可能性があります。											
【参考書等】											
（参考書） 必要に応じて指示します。											
【授業外学習（予習・復習）等】											
簡単なタイ語を読める能力を事前に身につけておく必要があります。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーは特に設定しませんが、授業時間外に話を希望するときは、tamada@asafas.kyoto-u.ac.jpにメールを送り、面会の約束を取り付けてください。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	臨地語学演習 On-site Practical Language Seminar I				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
地域の全体像に迫るために必要な現地語の習得を目標として、受講生を現地に派遣し、そこで専門性の高い語学トレーニングを行う。											
[到達目標]											
地域の全体像を理解するために必要な現地語の基本的事項を習得する。											
[授業計画と内容]											
受講者の言語レベルに合わせて主指導教員が設定した語学習得プログラムに沿って学習を行う。											
[履修要件]											
1.2年次に63日以上渡航した者。証明を添付。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
渡航後に提出する報告書（臨地研究報告書）に基づいて、主指導教員が評価を行う。											
[教科書]											
受講者の言語レベルに合わせて主指導教員から紹介する。											
[参考書等]											
（参考書） 受講者の言語レベルに合わせて主指導教員から紹介する。											
[授業外学習（予習・復習）等]											
現地に赴くまえに、対象語学に関連した情報を収集して予備的な知識の蓄積をこころがけること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	臨地語学演習 On-site Practical Language Seminar II				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員					
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
地域研究の成果を国際的に発信する力の強化を目標として、受講生を各々の研究分野に最もふさわしい研究機関等に派遣し、そこで専門性の高い研修・発表を行う。											
[到達目標]											
自ら行った地域研究の成果を国際的に発信することができる。											
[授業計画と内容]											
派遣先の研究機関等で、受講者の研究に関する専門性の高い研修・発表を行う。											
[履修要件]											
国際研究集会において日本語(留学生は母国語)以外で研究報告等した者。プログラム、報告論文、参加証等の写しを添付。「院生発案国際共同研究」の単位と同時取得はできません。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
渡航後に提出する報告書(臨地研究報告書)に基づいて、主指導教員が評価を行う。											
[教科書]											
受講者の研究の進展に合わせて主指導教員から紹介する。											
[参考書等]											
(参考書) 受講者の研究の進展に合わせて主指導教員から紹介する。											
[授業外学習(予習・復習)等]											
派遣先に赴くまえに、自らの研究成果を整理し、派遣先で会う研究者に説明できるようにしておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	研究発信トレーニング Training on Research Presentation I				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授	竹田 晋也 重田 眞義 藤倉 達郎				
配当 学年	1,2回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2017・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
海外で学術調査をおこなうための研究計画書を作成する諸技術を実習形式で習得することを目的とする。外国語による研究計画書作成するための技術を獲得するとともに、計画書作成を通じて今後の研究の方向性や具体的なすすめ方をより明確にしていくことをめざす。											
【到達目標】											
海外で学術研究調査を実施する際に必要な研究計画書が作成できるようになる。また、そのことを通じて研究の方向性や具体的な進め方を明確にする能力をみにつける。											
【授業計画と内容】											
以下の項目にそって講義をおこない、受講生はその過程で和文と外国語による研究計画書を作成し、担当教員が適宜個別に指導をおこなう。 1．海外学術調査をおこなううえで研究計画書を作成することの重要性、および学術調査を予定している国および地域に関して事前に収集すべき情報について。 2．研究計画書を作成するうえで重要な研究目的、調査対象、調査方法、および調査日程をより具体的に検討していく方法。 3．1と2をふまえたうえで、各受講者が和文研究計画書を作成する。 4．和文調査計画書を完成させたうえで、外国語で研究計画書を作成する。 5．受講生全体で、各受講生の研究計画書を発表する。それに対して、担当教員が講評をおこなう。											
【履修要件】											
特にないが、予備論文提出前の院生を想定して講義をすすめる。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
講義への出席、和文と外国語による研究計画書の作成・提出、発表会への参加を加味しながら、担当教員が評価する。											
【教科書】											
適宜指示する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する 適宜指示する。											
【授業外学習(予習・復習)等】											
事前に、調査研究対象とする地域・国に関する基礎情報を予習しておくことが望ましい。											
(その他(オフィスアワー等))											
この講義は、研究計画書作成技術のトレーニングを目的としているため、この講義の進捗状況にあわせて、各受講者は各自の主指導教員から研究内容について綿密に指導を受けて研究計画書を作成すること。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	研究発信トレーニング Training on Research Presentation II				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授	竹田 晋也 重田 眞義 藤倉 達郎				
配当 学年	3-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2017・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
海外で自らの研究成果を発信するために必要な諸技術を実習形式で習得することを目的とする。外国語による高いレベルの口頭発表の技術を学び、その作業を通して研究者として必要な自己表現の方法や必要な外国語能力を修養する。											
【到達目標】											
母国語以外の言語で開催される国際学会、シンポジウム、ワークショップ等の研究集会において研究の成果を発信することができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の項目にそって演習をおこない、受講生はその過程で外国語による口頭発表に関する資料を作成し、担当教員が適宜個別に指導をおこなう。 1. 海外で口頭発表するにいたるまでの準備についての講義。 2. 外国語で口頭発表をおこなううえで重要な資料準備の具体的な方法および留意的についての講義。 3. 1と2をふまえたうえで、和文による口頭発表のための資料準備をおこなう。 4. 和文の口頭発表資料を完成させたとうえで、外国語で発表資料を作成する。担当教員が適宜個別に指導をおこなう 5. 受講生全体で、外国語による口頭発表会をおこなう。担当教員は、各受講者の口頭発表に関して技術的な講評をおこなう。											
【履修要件】											
特にないが、予備論文提出前の院生を想定して講義をすすめる。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
口頭発表資料の作成・提出、発表会への出席およびその発表内容・発表技術を加味し、担当教員が評価する。											
【教科書】											
適宜指示する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する 適宜指示する。											
【授業外学習(予習・復習)等】											
口頭発表をおこなう研究成果の内容と発表構成を、事前に母国語によって十分に準備しておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
この講義は、外国語による口頭発表技術のトレーニングを目的としているため、講義の進捗状況にあわせて、各受講者は各自の主指導教員から発表内容について綿密に指導をうけて口頭発表資料を作成すること。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	リスク公共相関論 Risk and society				担当者所属・ 職名・氏名	学際融合教育研究推進センター 特定准教授 吉川 みな子 非常勤講師 西 真如					
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	その他	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
この講義では、複数の学問分野からの視点と地域研究のアプローチを用いながら、感染症や災害に対処するための公共性構築と、それに付随する課題について考える。											
パート1では、H I V感染症や津波防災といった問題に対処するための技術・制度・倫理について考察する。それぞれの課題について、政策立案者の視点や専門家の視点、当事者（H I V陽性者や津波警戒地区の住民）の視点を比較しながら、対策の妥当性について討論する。											
パート2では公衆衛生上の健康問題にリーダーとして対応するための公共性構築について、アジア諸国の具体的な事例を中心に検討する。災害後に発生する感染症を含め、疾病がもたらす公衆衛生上のリスクを検討し、これによる社会・経済・政治的な影響を理解する。社会における人々の健康を脅かすリスクに対処するためにリーダーとしてどのように社会的・政治的なコンセンサスを得るべきかを議論を通じて考察する。											
なおパート1、パート2いずれの授業においても、積極的な議論への参加を促すために、英語を母国語としない学生については英語での発言力がつけられるよう配慮する。											
【到達目標】											
パート1（全7回、担当：西） 政策立案者、専門家、当事者の立場の違いが、感染症対策や防災の技術・制度の構築にどのような影響を与えるか理解する。また講義での議論をきっかけに、履修者自身の研究にどのような制度的・倫理的課題が関係しているか顧みる。											
パート2（全7回、担当：吉川） 1. 現代社会にける感染症や生活習慣病などの公衆衛生上のリスクに関して学習し、グローバルな課題を考察する。 2. 社会における健康リスクを軽減できる方策を検討するために医学的、社会的、経済的、政治的な要因を分析できる実力を養う。											
【授業計画と内容】											
パート1： 第1回 講義：グローバルな感染症対策の技術・制度・倫理（1） 第2回 講義：グローバルな感染症対策の技術・制度・倫理（2） 第3 - 7回* H I V感染症問題および津波防災に関する英文論文を読んだ上で発表											
パート2： 第8回 パート2に関する概要の説明											
----- リスク公共相関論(2)へ続く -----											

リスク公共相関論(2)

ディスカッション：生活習慣病はグローバル社会のリスクとなるのか？

第9回

ケーススタディー：感染症の情報開示はいつどのように行われるべきか？

ディスカッション：感染症の影響（経済編）

第10回

ケーススタディー：グローバル規模の健康への脅威対応にはどのような準備とリーダーシップが必要か？感染症への取り組みはなぜ国ごとに違う？

ディスカッション：感染症の影響（政治・社会編）

第11回

講義：自然災害後に注意すべき健康リスク（感染症、生活習慣病）

ディスカッション：リスク対応における官・産・民のリンケージをどう作るのか？

第12 - 14回*

学生発表とグループディスカッション

*受講者は毎回のディスカッションに参加し、各回のいずれかで1回発表することが求められる。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

パート1（100点中50点）

発表と議論への参加を加味して評価する。

20点：発表

30点：ディスカッションへの参加

パート2（100点中50点）

講義・議論への参加状況と内容およびプレゼンテーションを加味して行う。

40点：ディスカッションへの参加

10点：プレゼンテーション

[教科書]

授業中に指示する

パート1：第1-2回は、担当教員が作成したスライド資料を使用する。第3-7回は、担当教員が指定する英文論文を使用する。

パート2：第8-11回に毎回10ページ前後のテキストを講義中に担当教員が配布する。

[参考書等]

（参考書）

Smith, Richard et al, eds 『Global Public Goods for Health: Health Economic and Public Health Perspectives.』 (Oxford: Oxford University Press, 2012.)

Tan, Yong Soon et al. 『Clean, Green and Blue: Singapore's Journey Towards Environmental and Water Sustainability,』 (2009.)

上記以外に必要なに応じて授業中に紹介する。

リスク公共相関論(3)へ続く

リスク公共相関論(3)

[授業外学習（予習・復習）等]

パート1：各回のディスカッションに参加できるように、予め指定する英文論文を読んだ上で出席すること。

パート2：単位取得を希望する学生は、各回のディスカッションに参加できるように10ページ前後の配布資料を読み終えた上で出席すること。

（その他（オフィスアワー等））

本科目はグローバル生存学大学院連携プログラムの選択必修科目でもあるので原則として英語で行うが、状況を鑑みて重要な部分は日本語と両方で説明する。やむを得ない事情で休講とした場合には学生の同意があれば補講を行う。オフィスアワー：木曜日13～14時半（事前にメールにてリクエストすること）。

e-mail: yoshikawa.minako.4r@kyoto-u.ac.jp)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	院生発案国際共同研究 International Research-Group Program for Graduate Students				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授	重田 眞義 杉島 敬志				
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態		使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
地域研究の諸課題について、分野・地域横断的に、院生が主体となって国際共同研究グループを組織して国際ワークショップなどを企画する。参加者は成果発表とその準備の過程をつうじて国際的な研究交流および研究経営の能力をみにつける。											
[到達目標]											
地域研究の諸課題について国際共同研究グループを組織して参加し、成果発表とその準備の過程をつうじて国際的な研究交流および研究経営の能力をみにつけることができるようになる。											
[授業計画と内容]											
院生の主体的な発案によって国際研究グループを組織し、参加する。											
研究の成果を国際研究集会において発表する。											
報告書を作成するとともに、学術誌等において成果を発表する。											
必要に応じて、教員が指導をおこなう。											
[履修要件]											
臨地演習の単位を取得済みであることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
プログラムへの積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
[教科書]											
特に定めない。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
自らの研究関心にとどまらず、地域や分野を超えた関連テーマについて積極的に学ぶ姿勢が求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
プログラム実施の詳細は臨地教育支援センターの定めるところによる。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	地域研究と比較政治学 Area Study and Comparative Politics	担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 准教授 Pavin Chachavalpongpur
---------------	---	-----------------	---

配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	火2	授業 形態		使用 言語	英語
----------	-------	-----	---	--------------	-------------	-----	----	----------	--	----------	----

[授業の概要・目的]

This course focuses on a wide range of literatures on comparative politics. In keeping with the spirit of comparative political science, most lectures involve a key paired comparison of two countries. We will also demonstrate how paired comparisons are changeable, given the types of questions one is pursuing. We will concentrate on six countries in Southeast Asia: Indonesia, the Philippines, Malaysia, Vietnam, Thailand and Burma. To fulfill the purpose of this course, we will discuss key themes from a comparative perspective, including the study of institutions, state formation and state-society relations, types of regime, political culture, political economy, and resistance and revolution.

[到達目標]

To encourage students to think beyond the normative understanding of "Southeast Asia" and look into critical contemporary issues facing the region--issues that had their historical origin. Also, to expect student's active participation in class discussion, from the students' viewpoint that may challenge and contest the normative understanding of this region.

[授業計画と内容]

Class Schedule

1. Introduction

2. Southeast Asia: Natural Region or Production of Power/Knowledge?

Donald Emmerson, " ' Southeast Asia: What ' s in a Name? " Journal of Southeast Asian Studies (March 1984).

Duncan McCargo and Robert H. Taylor, " Politics, " An Introduction to Southeast Asian Studies, ed. Mohammed Halib and Tim Huxley (1996).

3. State Formation and Colonialism

John S. Furnivall, The Fashioning of Leviathan: The Beginnings of British Rule in Burma (Canberra: The Australian National University Press, 1991).

4. Nationalism and Southeast Asia

Benedict Anderson, Imagined Communities: Reflections on the Origins and Spread of Nationalism (London: Verso, 1992).

5. Southeast Asia and the World

Benedict Anderson, The Spectre of Comparison: Nationalism, Southeast Asia and the World (London: Verso 1998).

地域研究と比較政治学(2)

6. Military Rule: Burma and Indonesia

Mary Callahan, "Burma: Soldiers as State Builders," in Muthiah Alagappa (ed) *Coercion and Governance: The Declining Political Role of the Military in Asia* (2001).

Vince Boudreau, *Resisting Dictatorship* (2004), ch 4.

Adam Schwarz, *A Nation in Waiting: Indonesia in the 1990s*, ch 2.

7. Democratic stagnation: Thailand and the Philippines

Baker and Phongpaichit, *A History of Thailand*, chs 6,7.

Abinales and Amoroso, *State and Society in the Philippines* (2005), ch 8.

8. Party Rule: Vietnam and Malaysia

William Case, *Politics in Southeast Asia* (2002), ch. 4.

Gareth Porter, *Vietnam*, ch. 1.

9. Authoritarianism and Separatism

Jacques Bertrand, *Nationalism and Ethnic Conflict in Indonesia*, ch 8.

Ivan Molloy (1988) "The Decline of the Moro National Liberation Front in the Southern Philippines," *Journal of Contemporary Asia*, 18, 1.

10. Democratisation: National/Local, Rural/Urban Struggles: Philippines and Thailand

Abinales and Amoroso, *State and Society in the Philippines*, chs 9 and 10.

Anek Laothamatas, "A tale of two democracies: Conflicting Perceptions of elections and democracy in Thailand," in Robert Taylor (ed.), *The Politics of Elections in Southeast Asia* (1996).

John Sidel, "Democratisation and Bossism in Contemporary Thailand and the Philippines," *IDS Bulletin*, 27, 2 (April 1996).

11. Democratisation: Stalled: Burma and Vietnam

Benedict Kerkvliet, "Village-State Relations in Vietnam: The Effect of Everyday Politics on Decollectivisation" (*Journal of Asian Studies*, 54, 2, 1995).

Kyaw Yin Hlaing, "The Politics of State-Society in Burma," *South East Asia Research*, 15, 2, 2007).

12. Democratisation: Now That He 's Gone... Indonesia and Malaysia

地域研究と比較政治学(3)へ続く

地域研究と比較政治学(3)

William Case, "Malaysia: New Reforms, Old Continuities and Tense Ambiguities," Working Paper Series, No. 51, Sep 2003, available at <<http://www.cityu.edu.hk/searc>>.

Vedi Hadiz and Richard Robison, "Neo-Liberal Reforms and Illiberal Consolidations: The Indonesian Paradox," 2003, available at <<http://www.cityu.edu.hk/searc>>.

Meredith Weiss, "What a Little Democracy Can Do: Comparing Trajectories of Reform in Malaysia and Indonesia," Democratisation (14, 1, 2007).

13. The Military

Mary P. Callahan, War and State-Building in Burma (Ithaca and London: Cornell University Press, 2005).

14. Social Movements

Vincent G. Boudreau, Resisting Dictatorship: Repression and Protest in Southeast Asia (London: Cambridge University Press, 2005).

15. Legitimacy

Muthiah Alagappa, ed., Political Legitimacy in Southeast Asia (Stanford, CA: Stanford University Press, 1995).

【履修要件】

Each student is required to read the week's assignment in its entirety before coming to class. (The books/articles are available at the CSEAS library.) Each student will write a 2-3 page critical review essay on one of the readings to be submitted the day before class (so I can read it and prepare my comments). If you fail to submit the essay on time, you need not appear in class. One student will be assigned to lead each week's discussion. The reflection essay is not a mere summary of the book/article. It should contain at the very least:

- The book's or books' main thesis/theses (or in other words, what is the author trying to convince us of?)
- The manner in which the author supports the thesis (or how the author uses evidence to support his/her arguments)
- Other issues that are raised as supplementary themes or sub-themes
- The significance of the book(s) to Southeast Asian studies and to comparative politics

Your essays should examine the themes more in depth than the readings allow. They should be comparative in scope; that is, compare and contrast between two countries.

【成績評価の方法・観点及び達成度】

The student grade is divided into the following: essays (50%); contribution to class discussion (40%); attendance (10%)

地域研究と比較政治学(4)へ続く

地域研究と比較政治学(4)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

Benedict Anderson, *Imagined Communities: Reflections on the Origins and Spread of Nationalism* (London: Verso, 1992).

Benedict Anderson, *The Spectre of Comparison: Nationalism, Southeast Asia and the World* (London: Verso 1998).

Vincent G. Boudreau, *Resisting Dictatorship: Repression and Protest in Southeast Asia* (London: Cambridge University Press, 2005).

Mary P. Callahan, *War and State-Building in Burma* (Ithaca and London: Cornell University Press, 2005).

Pavin Chachavalongpun, *A Plastic Nation: The Curse of Thainess in Thai-Burmese Relations* (Lanham: University Press of American, 2005).

Noorhaidi Hasan, *Laskar Jihad: Islam, Militancy and the Quest for Identity in Post-New Order Indonesia* (Ithaca, New York: Cornell University Southeast Asia Program, 2007).

Paul D. Hutchcroft, *Booty Capitalism: The Politics of Banking in the Philippines* (Ithaca, New York: Cornell University Press, 1998).

Andrew MacIntyre, *The Power of Institutions: Political Architecture and Governance* (Ithaca and London: Cornell University Press, 2002).

Alfred W. McCoy, *An Anarchy of Families: State and Family in the Philippines* (Madison: University of Wisconsin Press Center for Southeast Asian Studies, 1993).

Vicente Rafael, ed. *Figures of Criminality in Indonesia, the Philippines and Colonial Vietnam* (Ithaca, New York: Cornell University Southeast Asia Program, 1999).

James C. Scott, *The Moral Economy of the Peasant: Rebellion and Subsistence in Southeast Asia* (New Haven and London: Yale University Press, 1977).

James C. Scott, *Seeing Like a State: How Certain Schemes to Improve the Human Condition Have Failed* (New Haven and London: Yale University Press, 1998).

James C. Scott, *Weapons of the Weak: Everyday Forms of Peasant Resistance* (New Haven and London: Yale University Press, 1985).

地域研究と比較政治学(5)へ続く

地域研究と比較政治学(5)

[授業外学習（予習・復習）等]

Sometime students will be requested to study out of class and will be assigned to read class materials, to make a summary and possibly to make a presentation in class later.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	開発生態論 Development and Ecology				担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授 河野 泰之					
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
東南アジア大陸部における農村開発や環境保全、資源利用を題材として、私たちが研究に取り組む際にどういう視点を持ちうるのか、研究課題に対してどういうアプローチをとりうるのか、研究成果を誰に対してアピールしうるのか、などについて議論しながら、受講生自らが考えることをめざします。											
[到達目標]											
地域社会の特性を理解し、それを汎用性の高い文脈に位置づけ、普遍的な論理で発信できるようになる。											
[授業計画と内容]											
以下のような課題について、1課題あたり1～2週の授業をする予定である。ただし学習の理解度に応じて、変更される場合がある。また受講生のニーズに応じて英語での講義とする場合がある。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．ラオス農山村の長期土地利用変化 2．タイ東部の天水田水稲作の高度経済成長下の変容 3．ベトナム北部山地の森林回復 4．ラオス山地部の焼畑システムと土地管理 5．インドネシア・スマトラ島のジャングル・ラバー 6．タイ南部の沿岸域利用とカキ養殖 											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
出席状況と授業における討論に対する積極性により評価する。											
[教科書]											
適宜、資料を配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する 随時紹介する。											
[授業外学習(予習・復習)等]											
適宜、指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
積極的な授業参加、発言を希望する。 オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話をしたい学生は、(kono@cseas.kyoto-u.ac.jp)までメールすること。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	比較国民国家論 The Nation-State in Comparative Perspective				担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授 Hau, Caroline Sy					
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	英語
【授業の概要・目的】											
For most of the twentieth century, the nation-state has been a preeminent collective agent in history; geopolitical, economic, and cultural system; and unit of study and analysis. This course examines the experiences of making state and nation in Southeast Asia, while bringing up comparative questions and case studies from other regions. The class will be conducted in English.											
【到達目標】											
To familiarize students with the theory of nationalism in a Southeast Asian context and to provide an overview of some of the key debates in the study of the nation-state from a historical and comparative perspective											
【授業計画と内容】											
Weekly Required Readings:											
Charles Tilly, Coercion, Capital, and European States, AD 990-1992											
Oliver W. Wolters, History, Culture, and Region in Southeast Asian Perspectives, Chapters 1-4											
John Furnivall, The Fashioning of Leviathan											
Ongkhokham, “ The Inscrutable and the Paranoids: An Investigation into the Sources of the Brotodiningrat Affair, ” Southeast Asian Transitions: Approaches Through Social History, ed. Ruth McVey, Adrienne Suddard, and Harry Benda											
Anthony Milner, The Invention of Politics in Colonial Malaya											
Filomeno Aguilar, Jr., Clash of Spirits: The History of Power and Sugar Planter Hegemony on a Visayan Island											
Jim Rush, Opium to Java											
Carl Trocki, Opium and Empire: Chinese Society in Colonial Singapore, 1800-1910											
Penny Edwards, Cambodge: The Cultivation of the Nation, 1860-1945											
Crawford Young, The African Colonial State in Comparative Perspective											
Benedict Anderson, Imagined Communities: Reflections on the Origins and Spread of Nationalism											
Thongchai Winichakul, Siam Mapped: A History of the Geo-Body of a Nation											
James Scott, The Art of Not Being Governed (to be read alongside Southeast Asian Studies Special Issue “ Upland Peoples in the Making of History in Northern Continental Southeast Asia ”)											
----- 比較国民国家論 (2)へ続く -----											

比較国民国家論 (2)

【履修要件】

Attendance

Oral presentations

4 short papers

【成績評価の方法・観点及び達成度】

Attendance is mandatory.

Oral presentations 40%

4 short papers 60%

【教科書】

See reading list above for texts used in this class.

【参考書等】

(参考書)

See reading list above

【授業外学習（予習・復習）等】

- Preparation will be done on the topics written in the syllabus.
- Review will be done on the topics suggested in the lectures.

（その他（オフィスアワー等））

By appointment

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	タイ語 (初級) Thai I				担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 弓庭 育子					
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
臨地研究に備えて、暮らしの中で交わされる基本的なタイ語会話の知識を身につける。											
[到達目標]											
発音と声調の基礎が身についている。約100語の生活語彙と約20項目の基本文法が身についている。生活場面や話題に応じたタイ語表現を用いて意思疎通を図れる。											
[授業計画と内容]											
【学習方法】 講義形式による文法解説、単語、例文の口頭練習、文法事項の反復練習、ロールプレイ活動を行う。											
【学習内容：会話】											
1．オリエンテーション 学習内容、方法、テキスト、評価方法の確認											
2．発音練習 母音、声調、子音											
3．第1課1．1～1．3 挨拶、国籍を紹介する、尋ねる											
4．第1課1けたの数字、											
5．第2課2．1～2．3 挨拶、名前を紹介する、尋ねる											
6．第2課2．4～3けたの数字 挨拶、否定の表現											
7．第3課3．1～3．3 職業を紹介する、尋ねる											
8．第3課3．4～3．6 完了、予定の表現											
9．第3課数字に関する表現											
10．第4課4．1～4．3 継続の表現											
11．第4課職業の表現											
12．第5課5．1～5．2 品詞と語順											
13．第5課5．3～親族名称 可能の表現											
14．総復習											
[履修要件]											
効果的に語学を習得するため、履修期間中は 全講義に出席し、 テキスト付録のCDを用いてタイ人の発音をまねること、を学習習慣にすること。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
講義中の小テスト(300点前後)、学期末テスト(100点満点)を合計し、100点満点に換算して評価する。											
----- タイ語 (初級) (2)へ続く -----											

タイ語（初級）(2)

[教科書]

宮本マラシー・村上忠良 『大阪大学外国語学部 世界の言語シリーズ9 タイ語』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-333-4 C3087

[参考書等]

（参考書）

中島マリン著 赤木攻監修 『挫折しないタイ文字レッスン』（めこん）ISBN:4-8396-0197-6 C0387
（タイ文字の個人学習に関心のある学生に勧める）

[授業外学習（予習・復習）等]

予習：テキスト付録のCDを活用してタイ語の発音に親しむこと。

復習：既習内容はテキストを用いて見直し、CDで繰り返し発音を真似て再現を試みること。

（その他（オフィスアワー等））

上述と異なる学習レベルや学習内容を希望する場合には、第1回目授業日のオリエンテーションにて申し出ること。可能であれば対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	タイ語 (初級) Thai II	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 弓庭 育子								
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
【学習目的】 臨地研究に備えて、暮らしの中で交わされる基本的なタイ語会話の知識を身につける。											
[到達目標] 発音と声調の基礎が身についている。約200語の生活語彙と約38項目の基本文法が身についている。生活場面や話題に応じたタイ語表現を用いて意思疎通を図れる。											
[授業計画と内容]											
【学習方法】 講義形式による文法解説、単語、例文の口頭練習、文法事項の反復練習、ロールプレイ活動を行う。											
【学習内容：会話】 1. オリエンテーション 学習内容、方法、テキスト、評価方法の確認 2. 第6課6.1~6.2 指示代名詞 3. 第6課6.3~6.4 程度の表現 4. 第6課味覚表現 5. 第7課7.1~7.2 希望、要求の表現 6. 第7課7.3~7.5 許可の表現 7. 第7課交通機関の名称 8. 第8課8.1~8.2 指示形容詞 9. 第8課8.3~8.4 義務の表現 10. 第8課時刻の表現 11. 第9課9.1~9.2 順序の表現 12. 第9課9.3~方向、方角の表現 13. 第10課10.1~10.2 目的の表現 14. 総復習											
[履修要件] タイ語I(初級)を履修していることが望ましい。 効果的に語学を習得するため、履修期間中は 全講義に出席し、 テキスト付録のCDを用いてタイ人の発音をまねること、を学習習慣にすること。											
[成績評価の方法・観点及び達成度] 講義中の小テスト(300点前後)、学期末テスト(100点満点)を合計し、100点満点に換算して評価する。											
[教科書] 宮本マラシー・村上忠良 『大阪大学外国語学部 世界の言語シリーズ9 タイ語』(大阪大学出版会) ISBN:ISBN:978-4-87259-333-4 C3087											
----- タイ語 (初級)(2)へ続く -----											

タイ語（初級）(2)

[参考書等]

（参考書）

中島マリン著 赤木攻監修 『挫折しないタイ文字レッスン』（めこん）ISBN:4-8396-0197-6 C0387
（タイ文字の個人学習に関心のある学生に勧める）

[授業外学習（予習・復習）等]

予習：テキスト付録のCDを活用してタイ語の発音に親しむこと。

復習：既習内容はテキストを用いて見直し、CDで繰り返し発音を真似て再現を試みること。

（その他（オフィスアワー等））

上述と異なる学習レベルや学習内容を希望する場合には第1回目授業日のオリエンテーションにて申し出ること。可能であれば対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	インドネシア語 (初級) Indonesian I				担当者所属・ 職名・氏名	京都外国語専門学校 専任講師 柏村 彰夫					
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
基本的には、インドネシア語の学習歴の無い者を対象とする。 インドネシア語の基本的な運用能力の養成を目的とする。											
【到達目標】											
日常会話での慣用表現の発話・聞き取りができるようになる。また、基本的な文の創出ができるようになることを目指す。											
【授業計画と内容】											
基本的には教科書に則り、以下の項目について学習する。											
1.名詞文 2.発音と表記法 3.人称代名詞 4.基語動詞 5.ber-動詞 6.meN動詞 7.アスペクト、助数詞 8.形容詞 9.疑問文 10.疑問詞 11.受動 12.時間表現 13.接尾辞 -an 14.接頭辞 pe-, peN-											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点。語学の授業という性格上、出席状況を重視する。											
【教科書】											
森山幹弘・柏村彰夫 『『教科書インドネシア語』』(めこん) ISBN:4-8396-0159-3											
----- インドネシア語 (初級)(2)へ続く -----											

インドネシア語（初級）(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に適宜紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

初歩段階では語彙数を増やすことが最も重要である。従って初出単語の暗記を中心とする復習が必要。

（その他（オフィスアワー等））

第一回目の授業では、学习上必要な文献などの紹介を行う予定であるので、教科書や辞書を用意する必要は無い。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	インドネシア語 (初級) Indonesian II				担当者所属・ 職名・氏名	京都外国語専門学校 専任講師 柏村 彰夫					
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
インドネシア語Iでの学習内容を踏まえ、インドネシア語の運用能力の養成を目的とする。											
[到達目標]											
日常会話レベルの基本的表現の創出能力を習得する。											
[授業計画と内容]											
基本的には教科書に則り、以下の項目について学習する。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 程度の副詞、接頭辞 se- 2. 比較級、最上級 3. 接頭辞 ter- 4. 前置詞 5. 接続詞 6. 関係詞 yang 7. 接辞 peN-an, per-an 8. 相関構文、複合語 9. 接辞 ke-an 10. 命令文 11. meN-kan動詞 12. meN-i 動詞 13. memper 動詞 14. 畳語 											
[履修要件]											
インドネシア語Iの履修または同程度のインドネシア語能力を前提とする。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点、特に出席状況を重視する。											
[教科書]											
森山幹弘・柏村彰夫 『『教科書インドネシア語』』 (めこん) ISBN:4-8396-0159-3											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に適宜紹介する。											
[授業外学習(予習・復習)等]											
語彙習得が重要であり、既出単語を身につけるための復習が重要となる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	ビルマ（ミャンマー）語I（初級） Myanmar I	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 本行 沙織
---------------	-------------------------------	-----------------	-------------

配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	木3	授業 形態		使用 言語	日本語
----------	-------	-----	---	--------------	-------------	-----	----	----------	--	----------	-----

[授業の概要・目的]

- ・ビルマ語の発音と文字、文の成り立ちを理解する。
- ・基礎的な語彙を覚え、文型を身に付け、簡単な会話を繰り返し練習する。
- ・特に正確な発音の習得に重点を置き、母語話者に“通じる”ビルマ語を目指す。

[到達目標]

ビルマ語を正確に発音するとともに、基本的な読み書き、簡単な日常会話ができるようになる。

[授業計画と内容]

- 第1回 オリエンテーション
ミャンマーについて、ビルマ語の特徴、発音
- 第2回 文字1（基本字母、複合文字、母音記号、末子音を伴う音節の表し方、有音化と綴り字）
- 第3回 文字2（軽音音節の綴り、重ね文字、特殊な文字、不規則な読み方や不規則な綴り字、句読点、ビルマ数字、記号を書く順序）
- 第4回 第1課 それはココヤシの実です
- 第5回 第2課 元気です
- 第6回 練習問題1、第3課 私は豚肉のおかずが好きではありません
- 第7回 第3課 私は豚肉のおかずが好きではありません、第4課 ご飯食べましたか？
- 第8回 第4課 ご飯食べましたか？、練習問題2
- 第9回 第5課 マンダレーに行きます
- 第10回 第6課 何の仕事をしているんですか？
- 第11回 練習問題3、第7課 十冊くらいあります
- 第12回 第7課 十冊くらいあります、第8課 シュエダゴン・パゴダに行きたいです
- 第13回 第8課 シュエダゴン・パゴダに行きたいです、練習問題4
- 第14回 第9課 電気製品を売っている店はありますか？
- 第15回 期末試験

[履修要件]

- ・すべての授業に出席すること。
- ・授業時間外でも教科書に付属しているCDを積極的に聞き、ビルマ語の音に親しむこと。

[成績評価の方法・観点及び達成度]

毎回の授業で行う小テスト(50点)、期末試験(50点)

[教科書]

加藤昌彦 『ニューエクスプレス ビルマ語』（白水社）ISBN:ISBN978-4-560-08699-5

ビルマ（ミャンマー）語（初級）（2）

[参考書等]

（参考書）

岡野賢二 『現代ビルマ（ミャンマー）語文法』（国際語学社）ISBN:ISBN978-4-87731-384-5

[授業外学習（予習・復習）等]

定着を促すため、毎授業時に小テストを行います。

この小テストでは、授業で習った語彙や文法事項の確認に加えて、正しい発音が身に付いているかもチェックします。

家での復習を必ず行うようにしてください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	ベトナム語 (初級) Vietnamese I				担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学世界言語研究センター 清水 政明 准教授					
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
フィールドワークに耐え得る基礎レベルのベトナム語運用能力を習得することを目指す。											
[到達目標]											
人称詞の多様性を考慮しつつ、基本的な会話が可能となるレベルのベトナム語を習得する。											
[授業計画と内容]											
テキストに沿ってハノイ方言を基礎に学習する。フィールドで方言を必要とする場合も、方言習得の基礎となるので、ベトナムでフィールドワークを行う者は必ず履修して下さい。											
場面シラバスに基づく全26課からなる会話テキストの前半を発音・語彙・文法の順に学習する。											
必要に応じ方言（特に南部方言）に関する解説を行う。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
普段の授業参加状況による。											
[教科書]											
清水政明 『世界の言語シリーズ4 ベトナム語』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-328-0											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
復習のみ必要。教科書付属のCD音声（自然なスピード）を携帯端末等に落とし、毎日30分程度聞く。既習部分のみでよい。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	ベトナム語（初級） Vietnamese II				担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学世界言語研究センター 清水 政明 准教授					
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
フィールドワークに耐え得る基礎レベルのベトナム語運用能力を習得することを目指す。											
[到達目標]											
人称詞の多様性を考慮しつつ、基本的な会話が可能となるレベルのベトナム語を習得する。											
[授業計画と内容]											
ベトナム語Iに引き続き、テキストに沿ってハノイ方言を基礎に学習する。											
場面シラバスに基づく26課からなる会話テキストの後半を発音・語彙・文法の順に学習し、会話練習により知識の定着を図る。											
必要に応じ方言（特に南部方言）に関する解説を行う。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
普段の授業参加状況による。											
[教科書]											
清水政明 『世界の言語シリーズ4 ベトナム語』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-328-0											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
復習のみ必要。教科書付属のCD音声（自然なスピード）を携帯端末等に落とし、毎日30分程度聞く。既習部分のみでよい。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	アラビア語 (初級) Arabic I				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 竹田 敏之 特任准教授					
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
イスラーム世界の共通語であり、中東・北アフリカの主要言語である現代アラビア語の基礎文法の習得を目指します。											
【到達目標】											
アラビア語の単語や文をしっかりと形態的・文法的に解析できるレベルを目標とする。											
【授業計画と内容】											
アラビア語の基礎文法について次の事項を中心に学びます。 (1) アラビア語の概説 (2) 文字と発音 (3) 品詞分類 (4) 名詞の性・数・格変化(イウラーブ) (5) 人称代名詞・指示代名詞 (6) 名詞文 (7) 名詞の修飾関係 (8) 属格連結(イダーファ) (9) 関係形容詞(ニスバ) (10) 語根の概念と動詞の原型 (11) 動詞の種類 (12) 動詞の活用(完了形) (13) 派生語 (14) 行為者名詞・受身名詞 (15) 動詞の活用(未完了形)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点(出席および授業中に出される課題)											
【教科書】											
小杉泰・岡本多平・竹田敏之『京大式 アラビア語実践マニュアル』(京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科 グローバル地域研究専攻・附属イスラーム地域研究センター(KIAS)・若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム(ITP)、2011.)											
【参考書等】											
(参考書) 小杉泰・岡本多平・竹田敏之『京大式 実践基礎単語1300』(京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科 グローバル地域研究専攻・附属イスラーム地域研究センター(KIAS)・若手研究者インタ アラビア語 (初級)(2)へ続く											

アラビア語（初級）(2)

ーショナル・トレーニング・プログラム (ITP)、2012.)
竹田敏之『アラビア語表現 とことんトレーニング』(白水社、2013.)

[授業外学習（予習・復習）等]

各課の練習問題と読解について十分な予習を行ってこること。

(その他（オフィスアワー等）)

教科書については、初回の授業で説明します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	アラビア語 (初級) Arabic II				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 竹田 敏之 特任准教授					
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
イスラーム世界の共通語であり、中東・北アフリカの主要言語である現代アラビア語の文法理解をさらに深め、読解力の向上を目指します。											
【到達目標】											
アラビア語の単語や文をしっかりと形態的・文法的に解析できるレベルを目標とする。											
【授業計画と内容】											
<p>文法については次の事項を中心に学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 受動態 (2) 動詞文 (3) 動詞の用法 (接続法・要求法) (4) 命令形 (5) 助詞の用法 (6) 比較級・最上級 (7) 対格の特殊用法 (8) 完全動詞と不完全動詞 (9) カーナの用法と動詞の時制 (10) 派生型 (11) 正動詞と弱動詞 (12) インナとその姉妹語 (13) 関係代名詞 (14) 条件文 (15) 数詞の用法 											
【履修要件】											
アラビア語 を履修済みであること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点 (出席および授業中に出される課題)											
【教科書】											
小杉泰・岡本多平・竹田敏之 『京大式 アラビア語実践マニュアル』 (京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科 グローバル地域研究専攻・京都大学イスラーム地域研究センター (KIAS) ・若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム (ITP)、2011.)											
【参考書等】											
(参考書)											
小杉泰・岡本多平・竹田敏之 『京大式 実践基礎単語1300』 (京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科 グローバル地域研究専攻・附属イスラーム地域研究センター (KIAS) ・若手研究者インタ											
アラビア語 (初級) (2)へ続く											

アラビア語（初級）(2)

ーショナル・トレーニング・プログラム (ITP)、2012.)
竹田敏之『アラビア語表現 とことんトレーニング』(白水社、2013)

[授業外学習（予習・復習）等]

各課の練習問題と読解について十分な予習を行ってこること。

(その他（オフィスアワー等）)

教科書については、初回の授業で説明します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	アラビア語 (中級) Arabic III				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 竹田 敏之 特任准教授					
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
多様なアラビア語文献を読みつつ、プラクティカルな読解力を養うことを目的とする。アラビア語を読むコツのようなものをできるだけ多く紹介したい。											
[到達目標]											
原文の統語的な分析と、正確な訳出ができるレベルを目標とする。											
[授業計画と内容]											
授業で読む文献は受講者と相談の上、決定する。なるべく、受講者が研究上、読む必要のあるものを採用したい。原則として、3~4回ごとに文献を変えていく。毎回の授業では、受講者がそれぞれの担当箇所を音読し、その翻訳案を提示する。											
[履修要件]											
アラビア語の基礎文法を一通り学習していること。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点（出席および授業中のパフォーマンス）。											
[教科書]											
Yusuf Ibish and Yasushi Kosugi, eds., 『Turath al-Fikr al-Siyasi al-Islami』 (Turath, Bayrut, 2005.)											
[参考書等]											
(参考書)											
小杉泰・岡本多平・竹田敏之 『京大式 アラビア語実践マニュアル』 (京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科 グローバル地域研究専攻・京都大学イスラーム地域研究センター (KIAS) ・若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム (ITP)、2011.)											
竹田敏之 『アラビア語表現 とことんトレーニング』 (白水社、2013)											
その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。											
[授業外学習 (予習・復習) 等]											
講読する箇所について十分な予習を行ってこること。											
(その他 (オフィスアワー等))											
教科書については、初回の授業で説明します。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	アラビア語 (中級) Arabic IV				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 竹田 敏之 特任准教授					
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
アラビア語IIIに引き続き、多様なアラビア語文献を読みつつ、プラクティカルな読解力を養うことを目的とする。アラビア語を読むコツのようなものをできるだけ多く紹介したい。											
[到達目標]											
原文の統語的な分析と、正確な訳出ができるレベルを目標とする。											
[授業計画と内容]											
授業で読む文献は受講者と相談の上、決定する。なるべく、受講者が研究上、読む必要のあるものを採用したい。原則として、3~4回ごとに文献を変えていく。毎回の授業では、受講者がそれぞれの担当箇所を音読し、その翻訳案を提示する。											
[履修要件]											
アラビア語の基礎文法を一通り学習していること。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点（出席および授業中のパフォーマンス）。											
[教科書]											
Yusuf Ibish and Yasushi Kosugi, eds., 『Turath al-Fikr al-Siyasi al-Islami』 (Turath, Bayrut, 2005.)											
[参考書等]											
(参考書)											
小杉泰・岡本多平・竹田敏之 『京大式 アラビア語実践マニュアル』 (京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科 グローバル地域研究専攻・京都大学イスラーム地域研究センター (KIAS) ・若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム (ITP) 、2011)											
竹田敏之 『アラビア語表現 とことんトレーニング』 (白水社、2013)											
その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。											
[授業外学習 (予習・復習) 等]											
講読する箇所について十分な予習を行ってこること。											
(その他 (オフィスアワー等))											
教科書については、初回の授業で説明します。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	ペルシア語 (初級) Persian I				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 東長 靖					
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
ペルシア語は、アラビア語と並んでイスラーム世界の主要言語である。その基本的文法を半年間で講じる。初級テキストが読解できるようになることと、現地に行って最低限の会話ができるようになることが目的である。											
[到達目標]											
ペルシア語の基本文法を習得し、初級の講読ができるようになると同時に、現地に行った際、最低限の会話ができるレベルを目標とする。											
[授業計画と内容]											
テキストに基づき毎週進み、ペルシア語初級文法を半年で習得する。毎回、基本文と単語を暗記してもらい、小テストを行う。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
小テストを含む平常点で採点するが、必要に応じて期末試験を実施する可能性もある。											
[教科書]											
岡崎正孝 『基礎ペルシア語』 (大学書林) ISBN:4-475-01046-2											
[参考書等]											
(参考書) 黒柳恒男 『ペ日・日ペ 現代ペルシア語辞典(合本)』 (大学書林) その他、授業中に紹介する。											
[授業外学習(予習・復習)等]											
テキストは毎回予習することが必要である。また、単語力の増強も狙っているので、その暗記も必要となる。											
(その他(オフィスアワー等))											
毎回、小テストを行うため、十分な予習・復習が必要である。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	トルコ語 (初級) Turkish I				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 東長 靖					
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
トルコ語は、アラビア語・ペルシア語と並んでイスラーム世界の主要言語である。その基本的文法を半年間で講じる。初級テキストが読解できるようになることと、現地に行って最低限の会話ができるようになることが目的である。#160											
[到達目標]											
本講義では、文法と会話を中心にその習得につとめる。初級テキストが読解できるようになることと、現地に行って最低限の会話ができるようになることが目的である。プラクティカル・ランゲージ習得のために、この講義では相当数の単語を暗記してもらうので、受講者はあらかじめ心の準備をしておいてもらいたい。											
[授業計画と内容]											
テキストに基づき毎週進み、ペルシア語初級文法を半年で習得する。毎回、基本文と単語を暗記してもらい、小テストを行う。#160											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
小テストを含む平常点で採点するが、必要に応じて期末試験を実施する可能性もある。											
[教科書]											
林徹 『トルコ語文法ハンドブック』 (白水社) ISBN:978-4-560-08621-6											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
語学は絶え間ない予習と復習の繰り返しによってしか習得できない。各回の予復習には相当の時間をかけてほしい。また、単語力の増強も狙っているので、その暗記も必要となる。#160											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	ヒンディー語 (初級) Hindi I				担当者所属・ 職名・氏名	追手門学院大学 国際教養学部アジア学科 講師 小松 久恵					
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
21世紀の世界において重要な役割を果たすと予想される巨大国家インドの公用語ヒンディー語の初頭文法と簡単な会話を学ぶ。また映像・画像などのビジュアルを通して、急激に変化を遂げる現代インド社会に触れる。インド古典文学の専攻者だけでなく、将来商社マン・外交官あるいは技術者として南アジア地域での活動を希望する諸君にも是非受講してもらいたい。											
[到達目標]											
インドでは英語が通じると言われるが、実際には、英語を不自由なくしゃべることのできる話者数は全人口の5パーセントにも満たない。インド人と深い意思疎通をするためには現地語を知ることが不可欠となる。インドの公用語であるヒンディー語を通して異文化世界としての北インドについて学び、世界認識の幅を広げる。ヒンディー文字を習得し、ヒンディー語の初級文法と簡単な会話を理解する。											
[授業計画と内容]											
教科書を毎回一課の速度で進んでいき、1年で文法を一通り終えて読み物を読んだり、簡単な会話ができるようになることを目標とする。また適宜、映画を用いて音声でのヒンディー語のみならずインドの社会風俗にも触れる。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 文字と発音【4週】 3. 文法と会話【9週】 4. 中間試験【1週】 											
[履修要件]											
授業には継続的に参加すること。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点(40%)と筆記試験(期末60%)によって評価する。											
[教科書]											
町田和彦『ニューエクスプレス ヒンディー語』(白水社) ISBN:978-4-560-06791-8 (同著者の「CDエクスプレス、ヒンディー」とは別の本なので、間違えないこと)											
[参考書等]											
(参考書) 辞書については初回の授業で紹介する。											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業前までに前回の講義内容を見直し、特に前回の練習問題を復習しておく。インド関連の情報に関心をもつこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	ヒンディー語 (初級) Hindi II				担当者所属・ 職名・氏名	追手門学院大学 国際教養学部アジア学科 講師 小松 久恵					
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
21世紀の世界において重要な役割を果たすと予想される巨大国家インドの公用語ヒンディー語の初頭文法と簡単な会話を学ぶ。また映像・画像などのビジュアルを通して、急激に変化を遂げる現代インド社会に触れる。インド古典文学の専攻者だけでなく、将来商社マン・外交官あるいは技術者として南アジア地域での活動を希望する諸君にも是非受講してもらいたい。											
[到達目標]											
インドでは英語が通じると言われるが、実際には、英語を不自由なくしゃべることのできる話者数は全人口の5パーセントにも満たない。インド人と深い意思疎通をするためには現地語を知ることが不可欠となる。インドの公用語であるヒンディー語を通して異文化世界としての北インドについて学び、世界認識の幅を広げる。ヒンディー文字を習得し、ヒンディー語の初級文法と簡単な会話を理解する。											
[授業計画と内容]											
教科書を毎回一課の速度で進んでいき、1年で文法を一通り終えて読み物を読んだり、簡単な会話ができるようになることを目標とする。また適宜、映画を用いて音声でのヒンディー語のみならずインドの社会風俗にも触れる。											
後期											
1. 中間試験のフィードバック【1週】											
2. 文法と会話【8週】											
3. 文法と絵本講読【5週】											
4. 期末試験【1週】											
* 後期の期末試験フィードバックの方法は授業中に指示する。											
[履修要件]											
授業には継続的に参加すること。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点(40%)と筆記試験(期末60%)によって評価する。											
[教科書]											
町田和彦『ニューエクスプレス ヒンディー語』(白水社) ISBN:978-4-560-06791-8 (同著者の「CDエクスプレス、ヒンディー」とは別の本なので、間違えないこと)											
[参考書等]											
(参考書)											
辞書については初回の授業で紹介する。											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業前までに前回の講義内容を見直し、特に前回の練習問題を復習しておく。インド関係の情報に関心を持つこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	ネパール語I (初級) Nepalese I				担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学 非常勤講師 橋 健一					
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
ネパール語の読み書き、文法の基礎、会話能力を身につける。											
[到達目標]											
ネパール語の読み書き、文法の基礎、会話能力を身につける。											
[授業計画と内容]											
参加者の習熟度を確認しつつ、適宜、計画と内容を決定する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点と小テストによる。											
[教科書]											
下記、関連URL情報を参照。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
(関連URL)											
http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/81968/1/A214.pdf .PDF(石井溥著「東京外国語大学ネパール語研修テキスト」を教科書として使用する。各自でダウンロードすること。)											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業中に指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	シンハラ語Ⅰ（初級） Sinhala I				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 中村 沙絵					
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
シンハラ語の正しい発音に加え、日常会話に必要な語彙や基本文法を身につける。											
[到達目標]											
シンハラ語の正しい発音ができる。また、場面に適した日常会話ができるようになる。											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> 1．オリエンテーション 2．シンハラ文字と発音 3．あいさつと自己紹介 4．近況を尋ねる、こたえる 5．提案・勧誘、指示語 6．禁止・容認 7．数に関する表現 8．必要・原因・願望 9．強調表現 10．場所、時間、位置、時期 11．抽象名詞 12．比較表現 13．推量表現 14．総復習 											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点・小テスト（30%）と期末テスト（70%）で評価します。											
[教科書]											
野口忠司『ニューエクスプレス シンハラ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08722-0											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
授業の後には、付属のCDを使って発音の練習をすること。											
（その他（オフィスアワー等））											
具体的な要望があれば、授業の初日に申し出てください。可能な範囲で対応します。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	シンハラ語 I I (初級) Sinhala II				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 中村 沙絵					
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
フィールドワークでの応用を念頭に、より実践的なシンハラ語の習得を目指す。またシンハラ語の基本的な読解能力をみにつける。											
[到達目標]											
簡単なシンハラ語の文章が読める。調査に必要な語彙や表現を身につけている。研究内容等について、簡単にシンハラ語で説明することができる。											
[授業計画と内容]											
1～5回 絵本の購読を通じて、シンハラ語を基礎的な読解能力をみにつける 6～10回 調査研究に必要な語彙や表現をみにつける 11～13回 研究内容の簡単な説明をシンハラ語に翻訳し、練習する 14回 総復習・試験											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点(40%)と期末試験(60%)で評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業で翻訳すべき文章(研究内容や質問)を日本語で用意してもらうよう、指示する場合があります。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	ヒンディー語特講I Special Course in Hindi I				担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学 言語文化研究科 専任講師 西岡 美樹					
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
本授業では、新聞、専門書、詩歌などのヒンディー語や、実際のニュース、映画、ドラマなどに出てくる生きたヒンディー語に触れながら、高度な読解力と聴解力を養う。また、これらの多種多様なヒンディー語に触れることにより、高度なコミュニケーション能力を身に付けることも目指す。											
【到達目標】											
1.複雑な文章を精読できるようになる。 2.日常会話から学術的な説明文を聞いて理解できるようになる。 3.自分の考えをはっきり具体的に表現できるようになる。 4.単文および複文を使用した作文が自由にできるようになる。											
【授業計画と内容】											
本授業における基本的な導入順序は以下の通りである。 第1～5週目：アクバルとビールバル、パンチャタントラ、小話ほか 第6～10週目：インド神話関連の物語 第12～15週目：ヒンディー語映画、TVドラマ（マハーバーラタ、カター・サーガルなど） なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。											
【履修要件】											
語学訓練には継続性が欠かせないので、授業には継続的に参加すること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業への積極的な参加（40%） 期末試験あるいはレポート（60%）											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
（関連URL）											
http://khabar.ndtv.com/(NDTV（インドのニュース・報道専門番組）) http://www3.nhk.or.jp/nhkworld/hi/(NHK World Hindi)											
----- ヒンディー語特講I(2)へ続く -----											

ヒンディー語特講I(2)

<http://www.bbc.com/hindi>(BBC Hindi)

<http://www.jansatta.com/>(Jansatta (インドのヒンディー語新聞))

http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav_Bharat_Times/(Nav Bharat Times (インドのヒンディー語新聞))

<http://www.jagran.com/>(Dainik Jaagaran (インドのヒンディー語新聞))

[授業外学習(予習・復習)等]

- ・テキストに出てくる新しい単語については、授業前に辞書引いて意味を調べ、内容把握をきちんとしておくこと。
- ・聴覚の訓練については、インターネットの動画や音声放送、DVD化された映画やドラマ等を利用し、各自で常に自習をすること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	ヒンディー語特講II Special Course in Hindi II				担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学 言語文化研究科 専任講師 西岡 美樹					
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	火3	授業 形態		使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
本授業では、新聞、専門書、詩歌などのヒンディー語や、実際のニュース、映画、ドラマなどに出てくる生きたヒンディー語に触れながら、高度な読解力と聴解力を養う。また、これらの多種多様なヒンディー語に触れることにより、高度なコミュニケーション能力を身に付けることも目指す。											
【到達目標】											
1.複雑な文章を精読できるようになる。 2.日常会話から学術的な説明文を聞いて理解できるようになる。 3.自分の考えをはっきり具体的に表現できるようになる。 4.単文および複文を使用した作文が自由にできるようになる。											
【授業計画と内容】											
本授業における基本的な導入順序は以下の通りである。 第1～5週目：現代の短篇小説、ヒンディー語映画の詩歌 第6～10週目：新聞記事、TVニュース 第12～15週目：ヒンディー語映画、TVドラマ（ラーマヤナ、マハーバーラタ、カター・サーガルなど） なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。											
【履修要件】											
語学訓練には継続性が欠かせないので、授業には継続的に参加すること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業への積極的な参加（40%） 期末試験あるいはレポート（60%）											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
（関連URL）											
http://khabar.ndtv.com/(NDTV（インドのニュース・報道専門番組）) http://www3.nhk.or.jp/nhkworld/hi/(NHK World Hindi)											
----- ヒンディー語特講II(2)へ続く -----											

ヒンディー語特講II(2)

<http://www.bbc.com/hindi>(BBC Hindi)

<http://www.jansatta.com/>(Jansatta (インドのヒンディー語新聞))

http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav_Bharat_Times/(Nav Bharat Times (インドのヒンディー語新聞))

<http://www.jagran.com/>(Dainik Jaagaran (インドのヒンディー語新聞))

[授業外学習(予習・復習)等]

- ・テキストに出てくる新しい単語については、授業前に辞書引いて意味を調べ、内容把握をきちんとしておくこと。
- ・聴覚の訓練については、インターネットの動画や音声放送、DVD化された映画やドラマ等を利用し、各自で常に自習をすること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	スワヒリ語 (初級) Swahili I				担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 井戸根 綾子					
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
スワヒリ語はタンザニアおよびケニアの国家語であり、東アフリカを代表する共通語である。スワヒリ語の標準文法の理解を基本とし、初級に相当する読解力と日常的な会話能力の習得を目指す。またスワヒリ語独特の表現をより理解するために、その社会・文化的背景についても説明する。											
[到達目標]											
バンツー諸語の特徴である名詞クラスなどのスワヒリ語の標準文法の理解を基本とし、語彙、文型、実際の会話表現なども学ぶことで、初級に相当する読解力と日常的な会話能力を身につける。併せて、テキストの基本的な表現に基づいた応用練習を行うことで、スワヒリ語を用いて自ら表現する技能を習得することができる。また、テキストの会話表現には社会的・文化的事象が多く含まれる。その背景についての補足説明によって、東アフリカの言語だけでなく文化や社会についての知識も深めることができる。											
[授業計画と内容]											
第1週はオリエンテーションを行う。 第2週より、以下の項目について学習する。 あいさつ表現、自己紹介、動詞を使わない文(コピュラ・存在・所有)、現在時制・過去時制・未来時制・完了時制の表現、名詞クラスなど。 なお、授業の進度は適宜調整する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
出席状況および予習・復習状況(30%)、定期試験の結果(70%)により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。											
[教科書]											
竹村景子『ニューエクスプレス スワヒリ語』(白水社) ISBN:978-4-560-08527-1											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。 各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。 文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。 練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	スワヒリ語 (中級) Swahili II				担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 井戸根 綾子					
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
スワヒリ語はタンザニアおよびケニアの国家語であり、東アフリカを代表する共通語である。スワヒリ語の標準文法の理解をさらに深め、総合的な読解力と基礎的な表現力の習得を目指す。またスワヒリ語独特の表現をより理解するために、その社会・文化的背景についても説明する。											
[到達目標]											
初級で習得した知識を基本とし、さらなる文法事項や新たな語彙・慣用表現を学ぶことで、簡単な昔話などを読める読解力と基礎的な表現力を身につける。併せて、テキストの基本的な表現に基づいた応用練習を行うことで、スワヒリ語を用いて自ら表現する技能を習得することができる。また、テキストの会話表現には社会的・文化的事象が多く含まれる。その背景についての補足説明によって、東アフリカの言語だけでなく文化や社会についての知識も深めることができる。											
[授業計画と内容]											
第1週は初級で学習した文法の復習を行う。 第2週より、以下の項目について学習する。 接続形、動詞の派生形(受身形・相互形・使役形・状態形など)、指示詞、条件節、関係節、ことわざ・格言など。 なお、学習の進度は適宜調整する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
出席状況および予習・復習状況(30%)、定期試験の結果(70%)により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。											
[教科書]											
竹村景子『ニューエクスプレス スワヒリ語』(白水社) ISBN:978-4-560-08527-1											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。 各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。 文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。 練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	アムハラ語 (初級) Amharic I				担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 西 真如					
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2017・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
アムハラ語は、エチオピアにおける主要言語のひとつである。独自の文字を有し、同国のアムハラ州や、首都アジスアベバをはじめとする都市を中心に広く通用する。本講義では、エチオピアでのフィールド実習を希望する者を対象にアムハラ語の基礎的な会話、文法、文字、に加えて、言語の使用と関連した地域文化を扱う。											
[到達目標]											
アムハラ語の基礎的な会話、文法および文字の習得を目指すとともに、言語の使用と関連した地域文化への理解を深めてもらう。											
[授業計画と内容]											
毎回の授業は、次のテーマを1つ以上含む。 1．基礎的な会話を習得する 2．会話の習得に必要な文法を理解する 3．文字を習得する 4．映像資料の鑑賞、文字資料の読解を通して、アムハラ語使用と関連した地域文化への理解を深める 5．言語使用と関連したエチオピアの歴史や政治的背景についての理解を深める											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
出席と授業への参加状況にもとづいて評価する。											
[教科書]											
西真如, ハラガウォイン・カッバダ 『フィールドワーカーのためのアムハラ語入門』 (アフリカ地域研究資料センター) 若狭基道 『アムハラ語入門』 (アジア・アフリカ言語文化研究所)											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
会話や文法を確実に身につけるための復習を行う。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											